

競技上の確認事項

- 1 競技は、2017年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則に準じる。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 開館時刻は、両日共に8：00とする。
- 3 エントリー確認用紙を監督会議の時に提出すること。これ以外の変更は、いかなる場合も一切認めない。教職員外のコーチの変更がある場合、新たに「学校教職員外コーチ承認願」を提出すること。
- 4 開会式前は、フロアでのボールを使用しないウォーミングアップを認める。
- 5 開始式に参加する選手は12名以内とし、統一したユニフォームを着用すること。
（マネージャーの参加も認める）
- 6 第1試合前の練習は、コート設営が完了し、コート系の許可が出てから自由にコートを使って練習できる。ただし、ネット越しのプレーは禁ずる。第1試合のプロトコール開始10分前からは、第1試合のチームのみパス程度の練習とする。
- 7 ベンチ及びフロアには有効に登録された監督、コーチ、マネージャー及び選手以外は入ることができない。ただし、プロトコール前は、当該校の中学生の入場も認める。
- 8 監督、コーチ、マネージャーマークは左胸部につけ、監督、コーチは統一された服装でベンチに入ること。チームキャプテンは、胸番号の下に規定のマークを付けること。
- 9 試合開始の予定時刻を定めているが、第2試合以降は予定した時刻より遅れることがあっても、早く開始されることはない。プロトコール開始は、プログラム記載時刻の11分前とする。各試合とも、10分間の合同練習（パス程度）後、プロトコールに入る。なお、当該チームの試合が連続してしまう場合は、前の試合が2セットで終了した場合は最大15分間、3セットの場合は最大20分間空けて、プロトコールに入る。
- 10 公式練習は6分間とする。合同で公式練習を実施しない場合は、各チーム3分間とする。
- 11 1日目の第1試合の生徒役員（線審4名、点示2名）は、各コート第3試合のチームから出すこととし、2日目の第1試合は、第2試合のチームから出すこととする。両日とも第2試合以降は、敗者チームから出すこととする。ただし、全ての試合の記録（2名）と決勝戦の生徒役員は気仙地区の生徒で行う。

審判上の確認事項

- 1 本大会は、2017年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則に準じる。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 リベロとの交代については、サイドライン上でいったん立ち止まってから交代すること。
- 3 サブスティチューションは、ナンバーカードを用いてのクイックサブスティチューションで行う。（カードの表示は、エリアに入るときに全体にわかるように高く掲げて入場すること）
- 4 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。
（タイムアウト終了後コートへの戻りが遅い、靴紐の直し、選手交代の取り消しなど遅延行為として判断される）
 - 1 ボールであっても、ボールデット時間は8秒で運営できるようチームも協力すること。
 - ①ボールデットになったならば、サーバーはサブエリアに移動すること。
 - ②ボールデットになったならば、速やかにボールをサーバーに渡すこと。
 - ③コート外へボールが出た場合は、一人でボール拾いに行くこと。
- 5 ゲームキャプテンは質問する権利を有するが、抗議をすることはできない。また、他の競技参加者は質問する権利を有していない。
- 6 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。また、コート上の選手がベンチのスタッフや交代競技者とタッチ（ハイタッチなど）を行わないこと。ステージ1→ステージ2へと制裁の対象となる。（相手チームに向かってのガッツポーズ等も含まれる）
- 7 タイムアウトの要求は、ベンチから立ち上がりコールしながらオフィシャルハンドシグナルを明確にして示すこと。
- 8 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。コート内の選手で対処しきれない場合に備えて、控え選手もしくはその他の部員からクイックモップパー（2名以内）を待機させることができる。
 - ①専門のクイックモップパーの場合は、記録席脇とベンチとアップゾーンの中間に位置し、競技役員であることから服装を選手と別のものとする。また、チームに関することは一切できない。
 - ②控え選手の場合は、ベンチから直接ワイピングし、ベンチに戻ることに。
- 9 各コートには、ウォーム・アップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 10 セット間は、試合中のチームのみフリー・ゾーンでのボールの使用を認める。隣のコートの妨げにならないように注意し、パス程度とする。